



松本市図書館だより

令和2年1月1日発行 第79号

編集・発行 松本市
中央図書館
〒390-0861
松本市蟻ヶ崎 2-4-40
電話/0263(32)0099



謹賀新年



本年も皆様により充実した図書館サービスを提供できるように職員一同務めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

松本の新春の風物詩 400年以上続く 松本あめ市！！その起源については意外と知られていないのではないのでしょうか？関連する資料とともにご紹介します。

「松本あめ市」の起源については諸説ありますが、江戸時代前期には市神様（えびす様）を祭っていた宮村天神（現在の深志神社）の神主が正月十一日未明から塩を売るのが恒例で「塩市」が始まり、それがいつからか塩カマスをかたどったあめを売ようになり今日の「あめ市」となったといわれています。

また、江戸時代後期からは、戦国時代に上杉謙信が敵将である武田信玄に「義塩」を送ったとされる「謙信の義塩」伝説と結びつけられ、松本の地に「義塩」が届いたと言われる日を記念して開催された「塩市」が「あめ市」の起源とする説もあります。



「飴市縁起」

文・石原きくよ／郷土出版社
謙信がおくった義塩のものがたり。



「松本のあめ市」

松本あめ市実行委員会編／高美書店

松本地方の新春の祭典
あめ市の歴史と起源について
詳しく書かれた一冊。



「よみがえる城下町・松本」

松本城下町歴史研究会編著
／郷土出版社

城下町松本の都市の
記憶を写真や絵図で
紹介しています。



おしらせ



雑誌スポンサー制度



皆さんはご存じですか？図書館の雑誌カバーの裏面には地元企業の情報が掲載されています！あれ？そうだった？と思った方は是非ご覧ください！
<雑誌スポンサー制度とは>

図書資料（雑誌）を広告媒体として活用することにより、民間事業者の情報発信の場を提供するとともに、図書資料の充実を図ることを目的とする制度です。

雑誌は約130誌から選べ、最新号に広告掲載を行います。

また、スポンサー企業様は図書館HPの企業一覧に会社名の掲載をさせていただきます。詳細は中央図書館までお問い合わせください。
<募集内容>

- ・募集対象：企業、個人の事業者、公共的団体またはこれに類するもの
- ・スポンサーの期間：広告を掲載した日からその年度の3月31日まで
- ・広告掲載料金：1雑誌1カ月あたり1,000円



～動物絵本作家・動物画家 藪内正幸さんの世界～ 好きこそものの上手なれ

日時：1月19日（日）13時30分～15時30分
場所：なんなんひろば 3階大会議室
定員：80名 申し込み不要・入場無料
講師：藪内正幸美術館 館長 藪内竜太氏



三二原画展開催

講演に合わせて中央図書館ロビーにて藪内正幸氏の原画展示を12月24日（火）から1月18日（土）まで行っています。

関連する本も用意していますので是非ご来館ください。

問い合わせ先 中央図書館 ☎32-0099



新刊のご案内



「ちくわぶの世界」 丸山 晶代/著 ころから

【619 マ 所蔵館：あがたの森】

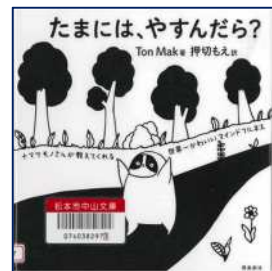
モチモチの食感とお花のような可愛らしい見た目が特徴の「ちくわぶ」。ただの小麦粉のかたまりなのに、どうしてこんなに美味しいの？ちくわぶ誕生の秘密、製造方法、メーカーごとの特徴、ちくわぶの美味しい食べ方やレシピも紹介されています。今までになかった、「ちくわぶ」だけの本です！

「たまには、やすんだら？」 Ton Mak/著 押切もえ訳 飛鳥新社

【498.3 マ 所蔵館：島内・中山】

のんびり屋で愛嬌のあるナマケモノさんがココロとカラダをゆるめる方法をゆる～く教えてくれます。読むだけでストレスが消えココロが満たされちょっぴり幸せな気分になれます。いつも仕事や家事・育児・勉強など忙しく頑張ってる人におすすめです。

自分に優しくしてあげてはいかがですか？



予約本ベスト5

令和元年 11 月 15 日～

令和元年 12 月 15 日受付

一般書

- 1位 『暗約領域』 大沢 在昌/著、光文社
- 2位 『ライオンのおやつ』 小川 糸/著、ポプラ社
- 3位 『勿忘草の咲く町で』 夏川 草介/著、KADOKAWA
- 4位 『ケーキの切れない非行少年たち』 宮口 幸治 /著、新潮社
- 5位 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレイディみかこ/著、新潮社

児童書

- 1位 『ノラネコぐんだんカレーライス』 工藤 ノリコ/著、白泉社
- 2位 『わたしのわごむはわたさない』 ヨシタケ シンスケ/作・絵、PHP 研究所
- 3位 『こども六法』 山崎 聡一郎/著、弘文堂
- 4位 『ふしぎ駄菓子屋銭天堂 12』 廣嶋 玲子/作、偕成社
- 5位 『クリスマスのふしぎなはこ』 長谷川 摂子/ぶん、福音館書店



図書館に聞いてみよう！

【今月の事例】小正月って？

A ア 『はじめて知るみんなの行事とくらし』

(2008 年/学研)

イ 『みんなが知りたい！「四季の行事」がわかる本』

(2007 年/ニコワークス/メイツ出版)

昔は「旧暦」という月の満ち欠けをもとにした暦を使っていて、旧暦の1月15日は1月最初の満月の日にあたり、この日を小正月と呼んでめでたい日としていました。小正月を祝う風習は、こうした時代のなごりです。

各地で正月飾りや書初めなどを焼く、左義長（どんど焼き）が行われます。各地で呼び方が違い、松本市では三九郎とも呼ばれています。この火で焼いたもちや団子を食べると、その年は健康で過ごせると言われています。また焼いた書き初めが舞い上がると習字の腕が上がるとも言われています。

他にも、小正月の朝には小豆がゆを食べる風習があり、小豆を食べると、1年健康に過ごせると考えられています。またこの日に小豆がゆで今年の作物のできを占う、「かゆ占い」を行う地域もあります。



図書館には、調べ物のお手伝いをするサービスがあります。本についての問い合わせ以外にも、身近な疑問についてもお調べしていますので、お気軽にご利用ください。

FMまつもと 今月の出演

1月23日(木) 12:30～

チャンネル：79.1MHz

※放送日等変更になる可能性もあつたのでご了承ください。



f フェイスブックやっています！

松本市図書館 アルプスの山々



フェイスブック QR コード